

平成26年度

幼・保・小ジョイントプロジェクト
茂木町の取組



栃木県総合教育センター幼児教育部

栃木県幼児教育センター

I 幼・保・小ジョイントプロジェクトとは

幼・保・小ジョイントプロジェクトとは、幼稚園・保育所・小学校の教職員が合同で研修し、幼児期の教育の成果を小学校教育に生かせるよう、市町における連携の推進を支援していく事業である。幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続が図れるよう、幼稚園・保育所・小学校の教職員の相互理解、連続した指導計画の作成や連絡体制の整備に組織的に取り組むなど、県と市町教育委員会が一体となり、地域の実情に応じた連携を推進している。

平成26年度は、茂木町で5回実施した。茂木町は、幼・保・小連絡協議会があり、毎年、研究テーマを決めて連携を図っている。連携の方法として、幼稚園または保育所1園、小学校1校の公開保育・授業、テーマに沿った講演会の開催など、長年、実績を積み重ねてきている。

今年度は、茂木町幼・保・小連絡協議会の研究テーマ「伝え合う力」を生かしてプロジェクトを進めた。幼稚園・保育所・小学校の教職員が一堂に会し、幼稚園、小学校の保育、授業を参観し、研究協議をもった。公開保育・授業は、年中組の同じクラスで2回、小学校1年生の同じクラスで2回行い、1回目と2回目の子どもの変容などを話し合い、伝え合う力の育ちや発達に応じた指導について共に考えた。また、それぞれ、公開1回目の研究協議の意見を参考に、2回目の保育・授業内容、指導の展開等の工夫・改善を行った。

次ページからは茂木町の実践とそれから得た成果・課題を紹介する。



幼・保・小連携のさらなる充実のために

子どもの交流活動



先生同士の打合せ



- 幼児・児童の双方のねらいを明確にし、互いに学びのある活動を展開しましょう。
- 年間計画に位置付け、幼稚園や保育所と小学校が一緒に活動の立案・実施・評価を行うことが望まれます。

一緒に学校探検



小学校へようこそ



教職員の相互理解



相互観摩体験研修



保育・授業の相互参観と協議



合同の研修会



連携組織の設置

- ・ 幼・保・小連絡協議会
- ・ 幼・保・小連携推進委員会 等



連携の様々な取組が、効果的に行われるようコーディネートする役割があります。

連絡体制の整備



園・校・小・学・校・た・よ・り・に・よ・る・情・報・交・換



- 連絡体制の整備は、行政機関が中心となって進めることが大切です。幼稚園・保育所・小学校が積極的に意見を交換し、地域の特色を生かした組織をつくりましょう。
- 教職員が互いの顔や名前が分かり、日常的に情報交換をしたり相談したりするなど、定期的・継続的な連携が望まれます。

教育委員会内の使込ボックス
(幼稚園・保育所まで)



定期的な情報交換会



一貫性のある指導計画の作成



伝え合う力を育てるための
年長から一年生へのカリキュラム



入学当初のスタートカリキュラム



- 子どもの発達を把握し、見通しをもって指導することが必要です。そのためには、育てたい子どもの姿や能力などを互いに話し合い、どのような指導がどの年齢が必要か明らかにします。
- それらを踏まえ、幼児期の「遊び」を充実させ、児童期の「学習」に生かしていくために適切な手立てをカリキュラムに位置付けましょう。

幼・保・小連携を推進することで

子 ども

- ☆ 一人一人の発達や学びの連続性が保障されます。
- ☆ 自分や友達よさに気づき、遊びや学びが広がります。

教 職 員

- ☆ 子どもの発達段階を知ること、教職員の子ども理解が深まります。
- ☆ 互いの教育を理解することで、自身の教育観が広がります。

栃木県幼児教育センターは、幼・保・小連携の取組をサポートします。

連携に関する講話・研修・保育及び授業研究などに
アドバイザーを派遣します。お電話ください。

【連絡先】 TEL 028-665-7215 FAX 028-665-7218
Email yokyo-c@tochigi-edu.jp



平成24年3月 改訂

Ⅱ 平成26年度 幼・保・小ジョイントプロジェクトの実際

1 概要

回	日・会場	内 容
第1回	5/14 (火) 茂木小学校	〈 趣旨説明 〉 1 挨拶 県総合教育センター幼児教育部長 田渕 光与 2 趣旨説明 県総合教育センター幼児教育部指導主事 前原 由紀 3 講話「幼・保・小ジョイントプロジェクトに向けて」 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏
第2回	7/9 (水) 逆川小学校	〈 授業Ⅰ 〉 1 第1学年国語科「すきな もの、なかに」 2 研究協議 (1) 挨拶 茂木町教育委員会教育長 澤村 悦夫 茂木町立逆川小学校長 町井 富子 (2) 本日の授業について 茂木町立逆川小学校教諭 山口 恵子 (3) グループ協議 「伝え合う力を育成するためにこの時期に大切にしたいこと」 (4) 発表 (5) 指導助言 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏
第3回	10/28 (火) 茂木愛泉幼稚園	〈 保育Ⅰ 〉 1 挨拶 茂木町教育委員会教育長 澤村 悦夫 茂木愛泉幼稚園長 小瀬 昭一 2 オリエンテーション 茂木愛泉幼稚園副園長 篠原真木子 3 4歳児「虫のおうちをつくろう」 4 研究協議 (1) 本日の保育について 茂木愛泉幼稚園教諭 山元 広美 (2) グループ協議 「伝え合う力を育成するためにこの時期に大切にしたいこと」 (3) 発表 (4) 指導助言 芳賀地区広域行政事務組合教育委員会指導主事 布施 恵子 芳賀教育事務所副主幹 阿久津裕美
第4回	11/27 (木) 逆川小学校	〈 授業Ⅱ 〉 1 第1学年国語科「日づけと ようび」 2 研究協議 (1) 挨拶 茂木町教育委員会教育長 澤村 悦夫 茂木町立逆川小学校長 町井 富子 (2) 本日の授業について 茂木町立逆川小学校教諭 山口 恵子 (3) グループ協議 「伝え合う力を育成するためにこの時期に大切にしたいこと」 (4) 発表 (5) 指導助言 芳賀地区広域行政事務組合教育委員会指導主事 布施 恵子 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏
第5回	2/10 (火) 茂木愛泉幼稚園	〈 保育Ⅱ 〉 1 挨拶 茂木愛泉幼稚園長 小瀬 昭一 2 オリエンテーション 茂木愛泉幼稚園副園長 篠原真木子 3 4歳児「看板づくりをしよう」 4 研究協議 (1) 本日の保育について 茂木愛泉幼稚園教諭 山元 広美 (2) 全体協議 「伝え合う力を育成するためにこの時期に大切にしたいこと」 (3) 指導助言 芳賀地区広域行政事務組合教育委員会指導主事 布施 恵子 芳賀教育事務所副主幹 根本 美紀 県教育委員会学校教育課副主幹 村石紀代美 宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏

2 実際

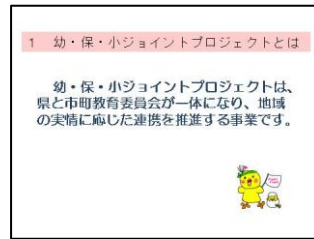
(1) 第1回 趣旨説明

第1回は、事業の趣旨や連携の意義について、講話や説明を行った。

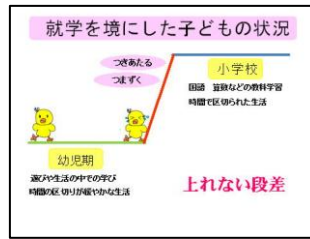
○趣旨説明



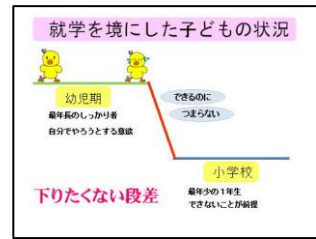
この事業の趣旨や目的等を伝えました。



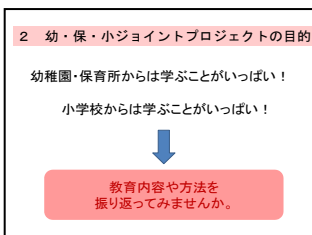
幼・保・小の校種を超えて、茂木町の連携を充実させたいと思います。



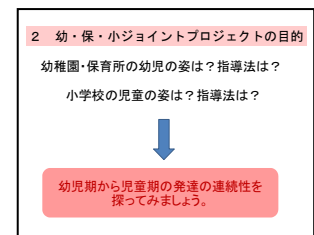
入学すると生活環境が変わり、1年生は、戸惑いを感じることがあります。



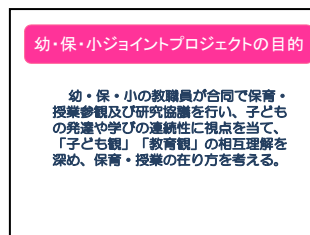
本当はできるのに、自分の力を発揮できないこともあります。



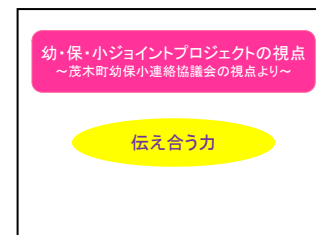
就学が子どもにとって成長するチャンスになるように、幼・保・小それぞれの教育内容や方法から学びましょう。



幼児期に培った力を最大限に発揮して、小学校生活が送れるように、子どもの姿をよく見て、自分が携わる時期の教育内容や方法を振り返ってみましょう。



この事業の目的はズバリこれです！



今年度は、伝え合う力を視点にして、子どもの姿を追い、幼児期から児童期にかけての教育の在り方について一緒に考えていきましょう。

○講話「幼・保・小ジョイントプロジェクトに向けて」

宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏



・何のための連携か

連携をするのは、幼・保の保育を小学校の教育に合わせるためでもなく、また、小学校の教育を幼保の保育に合わせるためでもない。求めるべきは、連携をして、幼児期及び児童期の子どもたちの学びをより豊かなものにしていくことである。

例えば、幼・保の先生は、子どもたちの「自発性（主体性）」をどのように引き出し、そしてどのように遊び（学び）を深めていくような援助をしているのか。このヒミツを小学校の先生が知ること、これまでに以上に子どもの学びをつなげ、より豊かな学びをつくっていくことができる。

あるいは、小学校で子どもたちが「集団」の中で学び合っている姿を見ることで、幼・保の先生は「学び合い」のイメージをつかむことができるであろう。

決して幼児期の保育を小学校の教育に合わせるためではなく、また小学校低学年の教育を幼児期の保育に合わせるために連携はあるものではない。

・「スタートカリキュラム」から「カリキュラム」へ

一人一人の子どもが、自分の興味がある内容から徐々に興味がない内容でも、友達とかかわりながら主体的に学びを持続させ、探究し続けることができるように、合科から教科へ移行する過程を大切にしなければならない。そのために、幼児期にはどのような経験が必要なのか、改めて考え直さなければならない。

そのような意味においても、スタートカリキュラムの創造が、小学校全体のカリキュラム、教育方法の見直しが行われるきっかけになるとよい。

・幼・保・小ジョイントプロジェクトに期待すること

これらのことを、可能にできるきっかけがこの事業である。例えば、幼・保・小それぞれの場所でのように「伝え合う力」を育んでいるのかを知ること、自分の携わる教育を振り返ることができる。

また、子どもが育っていく過程を見ることで、子どもの発達が分かり、連続した学びを保証することができる。これらのことは、小1プロブレムの根本問題である「自我のコントロール力の未成熟」へのアプローチのきっかけになるだろう。

第2回

(2) 第2回 授業I (平成26年7月9日)

児童は小学校入学により、自分を取り巻く生活環境や友達関係が大きく変化し、自分の思いがうまく伝えられないときには、友達と喧嘩になったり、大きなストレスを抱えたりしている。そこで、「伝え合う力」を育てていくために、どのような手立てが必要であるかを、教科等の学習を通して考えていくことにした。

自分の思いを伝える手段は様々だが、「伝えたい」という思いを生み出させるものは、何なのだろうか。それは、伝えたい内容が児童にとっていかに重要であるか、そして聞き手がそれを受け止めてくれるかということに他ならないと思う。

そこで、本単元では、児童にとって関心のある話題の選定や、しっかりと友達の話聞ける学級の雰囲気作りが大切であると考えた。本時では特に、導入や学習形態の工夫、発問・補助発問の吟味、適切な個別の支援により、児童が意欲的に伝え合えるような学習を展開していきたい。

○第1学年 国語科学習指導案

- 単元名 すきなもの、なかに
- 本時の目標
自分の好きな遊びを選び出し、カードにかいて知らせることができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- 本時の展開 (第1時／4時間扱い)

◎研究テーマとの関連 ○人権教育上の配慮

学 習 活 動	嚙	指 導 上 の 留 意 点	資 料	評 価 (評価方法)
1 本時のめあてを知る。 じぶんのすきなあそびをかあどにかいてみんなにしらせよう。	3	◎「仲良く遊ぶために、好きな遊びを知らせよう、知ろう」という投げかけをし、学習への関心を高める。(公園や学校の遊具等の写真の掲示。)	遊具等の写真 (小黑板)	
2 知らせたい好きな遊びを決める。 写真を見たり、友達と話をして、好きな遊びを決めましょう。 (予想される児童の反応) ・○○に決めた。 ・ゲーム機でもいいのかな。→学校でもできるものにしてよう。 ・分からない。 文字や絵でカードにかきましょう。 ・どのように書くの? ・一つだけなの?	17 ⑦ ⑩	・活動しやすいように、自席から離れ写真が掲示されている近くに集まるよう指示する。 ◎○体験等を会話しながら、好きな遊びを思い起こさせる。友達の思いを否定したりしないよう助言する。 ・個別の支援が必要な児童には、T2が、他の児童と本児との関わりを配慮しながら個別の声かけをする。(他の活動でも) ・自席に戻り、教科書P68を参考にし、かくよう助言する。また、決められた時間でかき終わらせるよう約束する。 ・いくつも紹介しては、友達が覚えきれないから、一つにすることを約束する。	記入用のカード	
3 カードを使って好きな遊びを知らせ合う。 男子、女子どちらとも紹介し合ひましょう。 ・自席を離れ、ペアになる友達を探す。 ・交互に知らせ合う。 ・友達の話聞いた後、感じたこと等を言う。 話す・聞くときの皆さんの様子や感想を紹介します。(教師・児童)	22 ⑮ ⑦	◎お互いの思いを伝えるため聞き取れるように話すこと、また最後までしっかり聞くことを約束する。 ・全員と紹介し合うことを約束する。(会話の成立、次時の活動意欲を考慮して変更もあり。) ・T1 T2 が分担して、伝え合う活動中の個々の反応の一部をメモし、良かった点についてはその都度賞賛する。 ・良かった点を児童に伝え、伝え合うことへの意欲付けとする。また、好きな遊びを知っての感想を発表させる。		【関心・意欲・態度】 〈おおむね満足できる〉 自分の好きな遊びを選び出し、カードにかいて相手に知らせようとしている。 (観察) 〈十分満足できる〉 自分の好きな遊びを選び出し、カードにかいて相手に分かりやすく知らせようとしている。 (観察)
4 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。	3	・次時は、教科書の文をまねて友達に好きな遊びを知らせる文を書いてみましょう。		

○授業の様子～参会者の記録から～

導入における教師と児童のやりとりの中で、児童が自由に話せる時間がとても有効的だった。

「好きな遊び」が題材になっていたのも、児童が意欲的に伝えようとしていた。

伝えたいことを一度カードに書いたことで、内容が整理されて、自信をもって発表していた。

教師が一人一人の思いをよく聞き、丁寧に対応していたので、安心して発言する様子が見られた。

○協議

幼稚園、保育所、小学校の教職員が4～5人のグループになり、「伝え合う力を育成する上で、この時期大切にしたいこと」をテーマに協議をした。

伝え合う力を育成する上で1年生で大切にしたいこと

- ・ 児童が安心して話せるように児童と教師の信頼関係を築く。
- ・ 児童が伝えたい思いをもって取り組める課題を設定する。
- ・ 一人一人の実態に応じた言葉掛けをする。
- ・ 教師が児童の話を中心に傾けて聞く。
- ・ 一人一人の意見が認められるような温かい学級集団を作る。
- ・ 興味をもって友達の話聞く態度を日常から育成していく。

○指導助言（宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏 先生）

- ・ 1年生にとってペア学習は効果的である。2人から3人、4人へと伝える相手を拡充していくなど発達に応じて経験を重ねることが大切である。
- ・ 伝えたい内容をカードに文と絵で表現させたことはよかった。思考したことを絵で表現していると同時に絵を描くことを通して思考している。実際に手を動かす作業は意味がある。
- ・ 人の話を聞けるようにするためには、人の感情に敏感でなくてはならない。これは、幼児期からの遊びの経験に基づき、獲得していくものである。
- ・ 伝え合うために大切なことは、自分の気持ちを適確に表す言葉を獲得していることが大切であり、無意識のうちに言葉をたぐり寄せられるようになることよい。



「写真を見て自由に話そう」



「まずは友達に伝えてみよう」

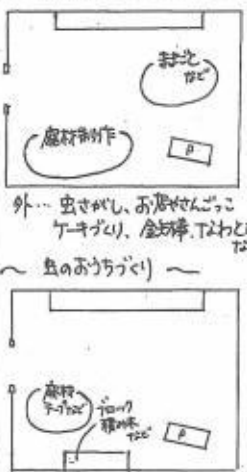
第3回

(3) 保育Ⅰ（平成26年10月28日）

本園の年中10月のねらいの一つとして「友達と意思を出し合いながら、自分たちで遊びを進めていこうとする」という項目がある。この時期、友達との関わりの中で、自分の思いやイメージを言葉や動きで表現するためには、一人一人の思いを大切に、活動を見守ることが大切である。また、友達との関わりについては、教師が共に遊びながら、機会をとらえて、接点を意図的につくっていかうと思う。

本日の保育は、虫に興味のある幼児が、空き箱を利用して製作した虫の家を作るために、友達と試行錯誤する活動である。幼児の伝え合う姿がより明確にとらえられるように、視点児を3人決めて、その様子を追い、協議をもつことにする。

○当日の指導案（年中組）

日案 10月28日 火曜日 くま組 2/ 名(男12名/女9名) (欠席・理由)		茂木愛泉幼稚園	
本日のねらい ◎ 友だちや担任とイメージや意思を出し合いながら遊びをすすめる。	主な活動 ◎ 虫のおうちをつくらう ○ 廃材や積み木などを使って～		
環境構成・あそび図 	予想される活動 一日の流れ 9:00 ～登園 自由あそび 10:00 体操 テーブル、椅子 入室 虫のおうちをつくらう 11:00 テーブル、椅子 入室 虫のおうちをつくらう 12:00 テーブル、椅子 入室 虫のおうちをつくらう 13:00 テーブル、椅子 入室 虫のおうちをつくらう 14:00 降園	教師の配慮（反省・課題） ・ひとりひとりとお話をし、体調などをチェックする。身じたくなど忘れよう子はさりげなく気づかせるよう声をかけていく。 ・元気に体を動かす様子、楽しく取り組んでいる姿を認めることで、意欲を更に引きだしていく。 ・おうちづくりでは、友だちのおうちとつづたり、自分のおうちをたげたりできるように、室内のスペースは広くとっておく。 ・友だちの作品を見てから仲間に入ることで、思いやイメージを出し合いながら取り組むことができる。好きな材料や道具は、担任が一緒に考えることで、友だちとかわるきかけをつくっていく。 ・こわれた部分を直したり、新しく仲間の虫をおうちを作ることで、材料や道具を準備する。 ・年長児が、自分たちから取り組んでいるコロコロド、ボールや折り紙を教えてもらうことで、おこがれの気持ちを待つとともに、遊びの中で異年齢児と積極的にがわちあひあひしていく。	

○保育の様子～参会者の記録から～

段ボール箱という大きな素材を使用することが、友達と関わる機会を増やしていた。

自分の思いを主張し、リーダー的に遊びを進めていく子がいた。少々、強引に思えたが、先生がうまくその子の存在を認め、周りの子に知らせていた。

一人一人が思いをもって活動していたグループは言葉での伝え合いは少なかったが、友達のしていることを真似るなど動きや行動が伝わっていた。

教師が、「どうする?」「どう思う?」など幼児が決められるような言葉がけをしていたので、幼児は、一生懸命考えて思いを表現していた。

○協議

幼稚園、保育所、小学校の教職員が4～5人のグループになり、「4歳児が協同的に学ぶために大切なしたいこと」をテーマに協議をした。

伝え合う力を育成する上で4歳児で大切にしたいこと

- ・ 一人一人の思いやイメージが実現できるような材料や時間や場所を確保する。
- ・ 一人一人の幼児の思いを教師が丁寧に推し量り、応答する。
- ・ 様々な場面で、子どもに「どうする？」など相談して、一緒に考えながら遊びや生活をつくる。
- ・ 友達とのやりとりの場面では、見守ったり必要に応じて介入したりするが、タイミングを見計らって関わる。

○指導助言

(芳賀広域行政事務組合教育委員会指導主事 布施 恵子 先生)

- ・ 幼児からみんなで一緒にやろうとする言葉が聞けた。これまで一緒に遊んだ生活をしたりする積み重ねがあったからこそである。友達と一緒に活動する楽しさが伝わっていたと思う。
- ・ 自分イメージに向かって、試行錯誤を繰り返しながら、活動する場面が見られた。小学校で求められる思考力・判断力・表現力等の育成につながる活動であった。
- ・ 教師は子供が何をしようとしているのかを聞き取り、認めながら、達成感を味わわせていた。また、幼児の思いや行動を教師が言葉にかえて、友達に伝えていた。伝え合う力を育成する上で、大切な支援である。

(芳賀教育事務所 阿久津 裕美 先生)

- ・ 共感する教師の接し方、言葉掛けにより、安定した温かい人間関係がみられた。その雰囲気の中で、幼児は自分の思いを素直に表現することができていた。
- ・ 教師が感動したことを素直に幼児に伝え、感動をみんなで共有していた。また。そのような場面で、教師が子供の思いをつなぐ場面が多く見られた。
- ・ この時期、言葉の伝え合いだけではなく、黙々と遊ぶ姿が周りに影響し、伝わっていくのではないかな。
- ・ 幼稚園や保育園から小学校への学びの連続性を図るため、このような連携が必要であり、大切である。



「二人でやってみよう」



「ぼくも作ってみようかな」

(4) 授業Ⅱ（平成26年11月27日）

今回は、前回から4か月たった子供たちの変化の様子が分かるように、同じ国語科で、「伝え合う力」の育成のための手立てを考えていくことにした。本教材は、「日づけの歌を楽しく唱えながら、日づけを正しく読んだり書いたりすることができる」ことをねらいとしている。本時では、単調な「覚える」だけの活動に終始するのではなく、意欲的に取り組める工夫という点で、自分の誕生日や楽しかった出来事と結びつけて、日づけを述べたり書いたりする活動を展開していくことにした。

人間関係の変化や学習態度、知識の定着の個人差など配慮しながら、導入や学習形態の工夫、発問・補助発問の吟味、適切な個への支援などをおして、伝え合う力の育成に迫っていきたい。

○第1学年 国語科学習指導案

1 教材名 日づけと よう日

2 本時の目標

自分の誕生日や楽しい出来事を伝え合うことをとおして、日づけを正しく読んだり書いたりすることができる。（国語への関心・意欲・態度）

3 本時の展開 （第1時／4時間扱い）

◎研究テーマとの関連 ○人権教育上の配慮

学 習 活 動	嚙	指 導 上 の 留 意 点	資 料	評 価 (評価方法)
1 本時のめあてを知る。 日づけを正しくよんだり、かいたりしよう。	5	・既習の漢数字（月・日）を復習する。 ◎教師の誕生日を漢字で板書し本時のめあての意識づけをする。	漢数字と数字が裏表になったカード	
2 自分の誕生日を発表する。 皆さんの誕生日を一人ずつ教えてください。 (予想される児童の反応) ・日づけの言い方が変だ。 ・〇〇さんと同じ誕生日だ。 ・他の日づけは何と言うのかな	8	・教師が話し方の例を示す。カレンダーを指しながら、全員に聞こえる声で自分の誕生日を一人一人発表させる。 ・個別の支援が必要な児童には、T2が、他の児童と本児との関わりを配慮しながら個別に声かけをする。（他の活動でも） ◎一人一人のつぶやきを大事にする。 ・出てこなかった日づけの言い方も確認する。	カレンダー	
3 思い出に残っている学校行事を選び、日づけと行事名をカードに書く。 学校での出来事で一番楽しかったのは何ですか。 出来事と日づけを漢字で書きましょう。	12 ⑦ ⑤	・活動しやすいように、自席から離れ写真が掲示されている近くに集まるよう指示する。 ◎〇体験等を会話しながら、楽しかった学校行事を思い起こさせる。友達の思いを否定しないよう助言する。 ・掲示したカレンダーを活用し、行事の日づけを確認していく。 ・自席に戻り、カードに記入させる。 ・「一番」なので、書く出来事は、一つにすることを約束する。	学校行事の写真（抜粋） 記入用のカード	
4 日づけの言い方に気を付けて、一番楽しかった出来事を伝える。 日づけの言い方に気を付けて発表しましょう。 (予想される児童の反応) ・日づけが正しく言えた。 ・自分も〇〇を選んだ。 ・友達の思い出が分かった。	15	・T1・T2が話し方の例を示す。（楽しかった訳や感じたことも述べる。） ◎話し方の練習をしてから、ペアでの伝え合いをし、次に全体の前で一人ずつ発表する。 ◎お互いの思いを伝えるため聞き取れるように話すこと、また最後までしっかり聞くことを約束する。（発表を聞いている感想）		【関心・意欲・態度】 〈おおむね満足できる〉 楽しい出来事を伝え合うことをとおして、日づけを正しく読んだり書いたりできる。（観察） 〈十分満足できる〉 楽しい出来事を積極的に伝え合うことをとおして、日づけを正しく読んだり書いたりできる。（観察）
5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。	5	・日づけ歌のCDを聴き、リズムに合わせて楽しく日づけの読み方をふり返る。 次時は、曜日の読み方と書き方を学習することを知らせる。	CD デジタル教材	

○授業の様子～参会者の記録から～

写真が掲示してあったので、伝える方も伝えやすく、聞く方も理解しやすかったのだと思う。

教師のうなずきが、自由に発言できる雰囲気を作っていたので、児童は安心して発表していた。

遠足の写真を見た児童は、言葉だけではなく表情や体の動きで自分の思いを表現していた。伝え合う方法は言葉だけではないと感じた。

授業の中で、一人で自己をみつめる時間と自由に表現する時間があり、そのバランスがとても重要だと感じた。

○協議

幼稚園、保育所、小学校の教職員が4～5人のグループになり、「伝え合う力を育成する上で、この時期大切にしたいこと」をテーマに協議をした。

伝え合う力を育成する上で1年生で大切にしたいこと

- ・伝えたい思いがわき出るような楽しい体験を増やす。
- ・先生や友達に聞いてもらえる喜びが味わえるようにする。
- ・一人一人の異なる意見を大切に、つないでいく。
- ・日頃から、教師が伝え合いのモデルになる。
- ・児童が自由に話す機会をたくさん作る。

○指導助言

(芳賀地区広域行政事務組合教育委員会指導主事 布施 恵子 先生)

- ・ねらいを達成するための手立てとして、学習課題設定の工夫や間違いを全体に広げて確認するなどの工夫が見られた。
- ・個に応じた支援や教師による代弁などにより、伝えたい場の工夫が見られた。
- ・教師の温かい言葉掛けにより、聞き上手を育てる工夫が見られた。
- ・一人一人の状況に応じた温かい学習環境の中で授業が展開されていた。

(宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏 先生)

- ・教師の声がよく伝わっており、子供の思いを引き出している。
- ・子供のつぶやきを受け止めることが大切であり、1対1の関係だけでなく、1対4、5人や1対全体の関係を日常的に育てていくことも大切である。
- ・子どもからの最後の発表で「みんなが大きな声で発表できた。」というのがあった。「みんな」という意識が育っていることがすばらしい。
- ・言葉を感じ取り、友達の思いを感じ取るためには、読み聞かせは大切な活動である。ぜひ、読み聞かせをしながら、子どもたちとたくさん対話をしてほしい。
- ・自分を見つめる自己内対話の時間が大切であり、それが表現へとつながる。



「伝えたい思いをふくらまそう」



「みんなに伝えてみよう」

(5) 保育Ⅱ（平成27年2月10日）

1. 回目の公開保育から3ヶ月が過ぎ、幼児は、遊びの中で、自分の思いを伝えたり友達の考えを聞いたりしながら遊びを進めようとする姿が見られるようになった。本園の年中2月のねらいの重点は「友達とアイディアを出し合い、保育者に手伝ってもらいながら、自分たちで遊びをつくっていかうとする」である。

本日の保育は、様々な場面で、幼児の伝え合う姿が見られるように、クラスみんなで遊ぶ場面とやりたい遊びのグループに分かれて活動する場面を設定した。また、公開保育1回目と同じ幼児を視点児にして、変容や育ちを追い、この時期の伝え合う力の育成について協議をする。

○当日の指導案（年中組）

日案 2月10日(木) 年中組 (男12名/女9名) (欠席・理由)		保育室 西本理奈幼稚園	
本日のねらい	◎ 友達とアイディアを出し合い、工夫してかんぱんづくりを楽しむ。	主な活動	◎ お店やさんごっこ (かんぱんづくり)
環境構成・あそび図	予想される活動	教師の配慮(反省・課題)	
準備品: 紙、色紙、カッター、ハサミ、のり、絵の具、セロテープ、紙コップ	一日の流れ 9:00 入園 自由あそび 体操・マラソン 10:00 ドッジボール 入室 おやつ(バナナ) 11:00 かんぱんづくり グループごっこ(お店やさんごっこ) 自由あそび 12:00 自由あそび 13:00 おやつタイム 降園準備 14:00 降園	・自分なりの目標をもて、取り組んでいる姿を認め、努力する姿、できるようにしたことを実感すること、意欲を更に引きだしていく。 ・ドッジボール(中ぎと)で、ルールのある遊びを楽しむ。ルールが共通しているよう、友達同士の伝えあう姿を見守り、必要に応じて声をかけていく。 ・かんぱんづくりでは、アイディアを伝えあう姿を見守りながら、必要に応じて、必要な物を準備していく。うまく意見がまとまらない時には、担任が入り、お互いの思いをひき出したり、伝えていく。 ・きりんぐみとすくすくこと、年長児へのあそびの招待をもち、遊び場への期待感を高める。	

○保育の様子～参会者の記録より～

ボールの取り合いにならずに、2人で一緒にボールを投げていた。それを、遊びとして取り込み、みんなで楽しめていた。

遊びながらルールが変化していく過程が楽しかった。そのルールがみんなに伝わって、共有されていくことに感動した。

長い時間、集中してお店の看板作りに没頭していることに驚いた。活動が終わった後、とても満足そうな表情をしていた。

「どうやるんだっけ?」「こうした方がいいんじゃない?」など、友達に伝えながら遊びを進めていた。先生や友達と相談する場面がたくさんあった。

○協議

「4歳児が協同的に学ぶために大切にしたいこと」をテーマに、全体協議を行った。

伝え合う力を育成する上で4歳児で大切にしたいこと

- ・ 友達から「見て学んでいる姿」を大切にする。真似ることも学びであり、教師がその思いを受け止めて実現していくことで、一人一人の活動が他の子に伝わっていく。
- ・ 「やりたい」「楽しい」など、活動に対して幼児の心が動いたとき、他の人に「伝えたい」という思いがわく。
- ・ 幼児が集中して活動する姿そのものが、友達に伝わっていく。
- ・ 幼児の活動を肯定的に受け止めたり活動に意味付けをしたりして、教師が伝え合いのモデルになる。

○指導・助言

(芳賀広域行政事務組合教育委員会指導主事 布施 恵子 先生)

- ・ 前回より、幼児の言葉の数や種類が増えた。幼児同士の会話でも「話す」「聞く」の関係が成立している。
- ・ 教師が幼児の活動をしっかり見守って、認め、気付かせ、活動の意義付けをしていくことが大切である。

(芳賀教育事務所 根本 美紀 先生)

- ・ 教師の一人一人を大切にしている姿がモデルになって、幼児に伝わっている。
- ・ 一方的な会話ではなく、双方向の会話が成立している。日頃から、幼児の言葉を大切にして、教師がつかないできた成果であろう。

(県教育委員会学校教育課 村石 紀代美 先生)

- ・ 幼児のがんばりに対して、教師の言葉掛けのタイミングが適切だったので、幼児は満足感を得ていた。
- ・ 「Aちゃんに教えてもらったんだ」など、友達を認める姿が見られた。互いに認め合い、安心して活動できる雰囲気がクラスにできていた。

(宇都宮大学教育学部教授 青柳 宏 先生)

- ・ 幼児は安心できる雰囲気の中で「自分」をもつことができていた。「自分の世界」を確立しつつ、「他者の世界」を垣間見ながら、新たに「自分の世界」を築いていく様子が見られた。自分のイメージをもって表現することと人の話を聞くことは対面するものではなく、自分をもちつつ人の話を聞くことで、また自分のイメージがふくらんでいく。
- ・ 人間は、「存在」「能動性」「相互性」「独自性」の4つの危機を乗り越えながら、成長、発達し続ける。今日の4歳児の姿にはこれらのことがすべてそろっていた。そして、これらを乗り越えていける力が養われていた。



「みんなと一緒に楽しい」



「みんなで作ろう！」

3 成果と課題

全5回の取組で、幼稚園・保育所・小学校の教職員、市町教育委員会、教育事務所が一同に会し、「伝え合う力の育成」をテーマに、保育・授業を参観し、協議をもったことで、それぞれが、自分の教育を見直すきっかけとなった。

【 保育を公開して 茂木愛泉幼稚園教諭 山元 広美 】

○小学校の授業を参観をして

- ・ 写真で示すなど視覚的に子どもに伝えていることが印象的で、もっと保育の環境にも取り入れようと思った。先生の発問やそれに対する応答も参考にしようと思った。

○研究保育を提供して

- ・ いろいろな方々に保育を見ていただき、意見をいただくことで、自分の保育や子供との関わり方を再び見直すよい機会となった。今回学んだことを生かし、よりよい子供の育ちのために、頑張っていきたい。
- ・ 言葉で伝えるだけではなくて、友達がしていることを見る、聴く、感じる、同じ作品や世界を共有するなど、様々な経験を重ねて「伝え合う力」は育成されていくのだと改めて感じた。今まで大切にしてきたことの意味付けをすることができた。
- ・ 一人一人の話を聴いて、肯定的に受け止めて、広げていくことを大切にして、自分の思いを伝えようとする意欲を幼児期に育てようと思う。そのために、待つ、認める援助を心がけて話しやすいクラスの雰囲気を作っていきたい。また、日頃から温かい人間関係を築き、友達に伝えたいワクワクする気持ちや伝わった喜びなどをたくさん経験できる保育をしたい。

【 保育を参観して ※参加者の振り返りシートより抜粋 】

- ・ 小学校では、教師がリーダーシップをとって授業を進めていくことが多いが、もっと子どもを主体に、見守ったり待ったりしてもいいのかもしれない。(小学校教諭)
- ・ 子どもを肯定的にとらえることは、大切だと思う。教師の何を感じてもいいという受け止めが子どもの自由な発想を生み、それを身近な人に伝えたいと思う。(小学校教諭)
- ・ 教師の子どものアイディアを大切にすることや子どもの視線で考え、認める言葉や行動が、集団の中で自分の気持ちを主張し、相手の思いも受け入れる姿を育てているのだと感じた。(保育所保育士)
- ・ 幼児が自由に活動する環境がとても整っていた。教師や友達に伝えたいような豊かな経験をするためには、保育環境について考えてみようと思う。(保育所保育士)

【 授業を公開して 茂木町立逆川小学校教諭 山口 恵子 】

○幼稚園の保育を参観したことから

- ・ 幼稚園の保育を参観することにより、幼児期の子どもの発達がよく分かった。小学校に入学してくる子どもたちは、初めから小学校1年生なのではなく、幼児期からのつながりがあっての子どもたちなのだと実感した。今までの自分は、「早く小学生らしく」「どうして〇〇ができないのか」などと、子どもの思いを考えずに自分本位で指導しがちであった。自分の思い通りに子どもたちが反応しないと、いらいらしたりもした。そんな自分を恥ずかしく思い、大いに反省する機会となった。幼稚園そして保育所の教職員の方々が、一人一人に愛情を注ぎ、大切に保育してきた思いを忘れずに、入学してきた子どもたちが、明るく安心して小学校生活を営めるように支援していくことが、1年担任の大きな務めだと感じた。

○研究授業を提供して

- ・ 研究テーマ「伝え合う力の育成」は、今の子どもたちに関わる様々な問題が物語っているように、本校の1年生のみならず、どの子どもにも当てはまる重要な課題であるという思いをもって、研究授業に意欲的に取り組むことができた。
- ・ 自分がミドルリーダー的存在の年齢となり、ともすると今までの経験だけに頼って無難に学習活動を展開してしまいがちだが、幼・保・小の教職員の方々と協議をする中で、子どもたちの指導方法について模索したり、教育への情熱を再確認したりする機会となった。

- ・ 何事も日頃の学級経営が基本、学業指導の充実の大切さを改めて実感した。また、担任の人間性（子どもの思いを大切にして話をしっかり聞くことなど）が大きく影響するのだと気づき、責任の重さも感じた。
- ・ 個への指導と全体への指導の関わりなど、日頃から指導について疑問に思っていたことが、解決に向かった。
- ・ 学級の児童11名が明るく意欲的に授業に取り組む様子から、参観者の方々がこの子どもたちを多面的に理解してくださったことが、担任としてとてもうれしいことである。

【 授業を参観して ※参加者の振り返りシートより抜粋 】

- ・ 伝え合う力を育成するために、幼児期は、思わず誰かに話したくなるような豊かな体験を重ねることが大切である。一つ一つの体験を幼児と共に丁寧に取り組んでいきたい。
(保育所保育士)
- ・ 集団の中で一人一人が主体的に活動し、伝え合いができるように、人と人との信頼関係の基礎を築いていきたい。
(保育所保育士)
- ・ 幼児期は、言葉での伝え合いはうまくいなくても、その基礎となる「伝えたい気持ち」を育てておけば、小学校で、堂々と自分の思いを伝えられるのではないだろうか。
(保育所保育士)
- ・ 保育の中で、幼児が話す場面をたくさん作ろうと思う。そのことを、教師や友達に聞いてもらうことで、聞いてもらえる喜びを感じて、伝えようとする意欲が高まるだろう。
(幼稚園教諭)

【 茂木町の成果と今後に向けて 茂木町幼・保・小連絡協議会事務局 稲葉 守 】

- ・ 茂木町では今までも幼・保・小連絡協議会において、年1回小学校と幼稚園、保育所で授業参観や保育参観を行ってきたが、半日の日程で実施していたためじっくりと参観したり、研究協議の場をもつことができなかった。今回のジョイントプロジェクトの実践により、それぞれ2回の参観・研究協議・講話や指導助言をいただけたことにより、充実した内容となった。今後も、授業・保育参観の後の協議を大切にしたい。
- ・ 今回のジョイントプロジェクトで各々が学んだことを、自校園で実施してもらい、その成果を協議会で報告し合うなど、さらに保育・授業内容を深めていきたい。
- ・ 同じ子供たちを時期をずらして2回参観することができたため、その成長ぶりや変容を感じ取ることができるとともに、幼児期から児童期の成長の速さを実感することができた。
- ・ 小学校や幼稚園・保育園の先生方同士の交流が深まり、互いの校種についての理解が一層深まった。今後も幼・保・小連絡協議会の研修内容の充実を目指し、茂木町の実状に合った連携を推進していきたい。



「茂木町の子どもたちのために」

Ⅲ さらなる幼・保・小連携の充実に向けて

今年度の茂木町のジョイントプロジェクトは、回を重ねるごとに、幼・保・小の教職員の相互理解が深まり、研究協議が活発になっていった。教職員一人一人の幼児理解や児童理解の視点が増え、それぞれの教育観が広がったのだと思われる。

このように、幼稚園・保育所の教職員は小学校の教育を、小学校の教職員は幼児期の教育を理解することで、幼児期から児童期の子どもの発達や学びの連続性を捉えることができる。その上で、改めて自分の教育観を見直すと、これまで気になっていたことの解決の糸口が見えてきたり、保育や授業の在り方を見直す機会になったりする。今後も、保育・授業参観、交流活動などを通して、互いに本音で意見を言い合えるような関係性を保ち、保育・授業の向上を目指せるように、市町教育委員会、教育事務所と協力して事業を展開していきたい。

また、今後は、幼児や児童の発達に応じた望ましい指導の在り方をとらえて、カリキュラムの編成・改善を図り、地域に発信するなどして、幼児期から児童期にかけてのさらなる教育の充実を提案していきたい。

地域で取り組む「幼・保・小連携事業」の参考にしてください。
一緒に栃木の幼・保・小連携を推進しましょう！

